

## 平成 19 年度第 2 回山形県立博物館協議会 記録

平成 20 年 2 月 8 日 (金)  
午後 1 時 30 分～3 時 40 分  
於：山形県立博物館講堂

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報告

### (1) 平成 19 年度主要事業の進捗状況について

(尾形副館長、高橋副館長、浅黄学芸員が説明)

質疑は次項とともに一括して行うこととした。

## 4 協議事項

### (1) 平成 20 年度の運営方針、事業計画について

(1～3 まで館長が説明し、4 は尾形副館長が説明)

【日野委員】 前回も取り上げたが、県生涯学習文化財団でも、他機関との連携・共催に取り組もうとしている。今年度は、①文翔館・博物館共催による「山形ふるさとセミナー—山形の町並み—」 ②山形大学との共催による「五百澤智也山の科学画展」に取り組んだ。②は山大の「知」と文翔館の立地条件がマッチし成果が上がった。好評を受けて 20 年度にはパートⅡの展示会を計画している。

博物館の若松寺展や、20 年度の運営方針にも明確に打ち出した他館・他機関との連携が効果を高めるのだと財団としても実感している。今後も文翔館に対する協力をお願いしたい。

【尾形副館長】 当館の 20 年度の県埋蔵文化財センターとの共同企画展でも、その後の一部を文翔館でも展示することを考えているとセンターから聞いている。

【酒井委員】 若松寺展はいい企画だった。来年度の世界遺産関連の最上川展、埋文センターとの共同企画展も期待できる。ぜひ致道博物館も仲間に入れていただきたい。

博物館が 15 年間もこのままに置かれるということだが、厳しい県予算の中でもこのように色々な活動をしているのだから、県にはもう少し予算を付けてもらいたい。

史跡整備の進捗状況は順調なのか、遅れているのか。博物館の今後はどうなっていくのか。城址と関連付けて公園を出て行かない方法もあるように思われるが。

【教育やまがた振興課長】 山形城の工事は山形市都市計画課で行っており、新聞

情報で得られる程度の把握でしかない。整備事業の今後については市から情報をいただき、次回の協議会にお伝えしたい。

これまでのところ平成35年までとしているのは県体育館・武道館である。博物館がどうなるかは今後の市との話し合いとなる。委員のご意見のように城址に在っても不思議ではない施設であるとも言えるが。

【館長】 新聞報道では、史跡整備が10年延びて2033年まで延長、市営球場は2028年撤去、県体育館・武道館は2023年までに撤去とされる。

【尾形副館長】 山形市では現在一文字門の一带を整備しているが、財政難から本丸の工事は予算凍結のため行われておらず、整備のための調査もできていない。以前には、市の郷土館（済生館三層楼）も明治以降なので移転の方針であった。公園整備計画において、当館の位置には芝生整備など軽度のものが描かれている。

【安達委員】 先日、秋田県立美術館に行ったところ、指定管理者（財団法人平野政吉美術館）にまかせられており驚いた。市の公民館、体育館などもほとんど指定管理者に移行して予算を削っているが、県博については指定管理者導入の話はあるのか。公営のものは長期的観点から判断していかないと将来が危ういと思われる。

【教育やまがた振興課長】 博物館について具体的な話しはなく、この2・3年後にどうなるということではない。しかし、一般論としては検討対象に入ってくる。県管理でなければ、ということでは必ずしもなく、よりよい方向での検討ということになろう。

【安部委員】 館長講座はユニークだと思うが、19年度は半分が世界遺産講座に変わっており、20年度事業計画には入っていないのはどうしてか。

【館長】 19年度の世界遺産講座は館長講座の枠内のものである。今年館長として赴任したところ館長講座をやることになっており、最上川や紅花を取り上げようか、となった。4回分の計画で、学芸員にも一部持ってもらおうかと考えた。その頃ちょうど世界遺産への取組みが本格化し、本庁から館でも何らかの取組みを、と依頼されたことがあり、世界遺産推進室から話をしてもらうことになった経緯がある。テーマも私の当初の構想に重なることから、世界遺産推進室のPR活動に場を提供したものである。

20年度も館としては館長講座を持つ方向である。（館長の異動がある場合、私の経験から、新任者にとにかくやれということはおかしいと思うので、新任者の了承を得た上で実施に踏み切ることとしたい。

【安部委員】 博物館長は本県の文化のステイタスの一つであるのに、毎年1年で交代する人事には問題がある、教育長に申し入れたくらいである。館長が専任でいるような体制を作ってもらいたい。

最近、文化庁からの来県者があって、世界遺産について良い動きがあったとか

聞いたが、なにか情報が入っているか。

【教育やまがた振興課長】 何も聞いていない。文化庁の外郭団体の方が来県したことは聞いているが。

【酒井委員】 館長の任期が1年というのは困る、少なくとも2・3年はいてもらいたい。人事には様々な要因があろうが、県のしくみを変えねばならない。

【丸山会長】 この協議会において、館長の任期について配慮が必要だという強い意見があったということ、課長には持ち帰っていただきたい。

博物館法の改正案の中で、地域住民の声を生かすことという点について、具体的にはどういうことを想定しているのか。こうした協議会の充実というのか、新たな意見吸い上げの形をつくるというのか。地域住民へのアンケートとしても、ここの博物館に関しては、単なる意識調査だけでなく史跡の整備も含めた視点での県民の意見を聞く必要がある。

【阿部館長】 この協議会の論議内容はホームページで公開している。すぐには改善できないことも含め、各方面の識者としての立場の皆様からのご意見を十分承っている。県に対してもここでの審議内容を伝えている。

【吉田委員】 20年度も予算が厳しい中で、努力していることが見える。

世界遺産に向けた取り組みにおいて核となるのが博物館だと思うが、推進の組織において博物館はどのような位置付けになっているのか。観光や産業振興の面だけでなく、こうした場面には、核となる博物館整備の大きな構想作りこそ必要であるのに、県の文化振興における博物館の位置付けが明確でないことにむなしさも感じられる。効率的な運営の追求ということだけで民間へ、となくなっていくのでは、と危惧している。

【教育やまがた振興課長】 博物館が文化、歴史の情報センターとしての位置にあることには変わらないが、将来構想に関しては凍結されており、今新たな動きはない。

将来展望が開けない中でも、皆様のご意見や我々の知恵の出しようで対応していかなければならないのだと考える。県に対して「どうする、どうする」でなく、こちら側がどう主体的に向かっていくが問われていると思う。

【館長】 博物館の運営には難しいものがある。お客相手という面もあれば、県立博物館としてはここ1館ということで、本県の資料調査・保存の役割もある。人を集めればよいというだけの役割ではなく、相矛盾する命題を内在していると感じる。

【吉田委員】 課長の話について一言。この協議会の討議で将来構想を何度も取り上げたが、どこで何をしてくれるのか、という態度での討議ではなかった。予算が厳しいため構想は凍結された、というので、少しでもトリニユーアル案を検討して提案しても、それも採択されないでずっと来ている。こうした状況を

踏まえてどういう方向を目指すのか、ということが課題だと思うが。

【教育やまがた振興課長】 将来構想が凍結されたため17年度から検討したリニューアル案が、不適當ということで採用されなかった。もっと別の視点からでないと採用されない、それが何なのか我々としても見えないのが現状であるが、今後良く考えていかなければならない。

【日野委員】 新築移転が当分できないので、常設展示の改装が必要だということについて。今日あらためて常設展を見たが、あまりお金をかけられないとしてもパネルやキャプション、照明に何か工夫できないものかと思う。何年も変化が無いのは良くない。

来年度の企画展には期待している。財団でも山形学講座のテーマとして最上川を取り上げようと考えている。こちらからも何か博物館のお役に立てることがあればいいとも思う。「少年雑誌にみる戦中・戦後展」にも期待したい。私の少年時代に、よく少年雑誌を買いに行った八文字屋で紙不足になって本棚が空っぽだった時代も経験している。

【酒井委員】 よくこれだけの事業に取り組んでいると感じる。

高校生の一日体験講座はどういう形でやられているか。

【尾形副館長】 県高文連との共催で、高文連から各校に募集をして実施している。

今年は37名の参加を得た。酒田工高や加茂水産高など県内全域から参加がある。

【教育やまがた振興課長】 吉田委員の意見に関して。私も博物館について常々問題意識を持っている。先のリニューアル案がなぜ駄目になったんだろうとも思う。また同じことを繰り返すのはどうか、ということもあろうが、もう一度動いてみる必要があると考える。博物館と課とで検討の場を持ちたい。

(閉会)